

建設地	： 愛媛県今治市	竣工	： 令和3年3月	敷地面積	： 470.00㎡
地域区分	： 6地域	用途	： 専用住宅	延床面積	： 92.78㎡
設計者	： 野の草 設計室	構造・階数	： 木造軸組・地上1階	建築面積	： 112.60㎡

■提案の概要

- 瀬戸内海に突出した半島に位置し、年間を通して温暖少雨で台風の影響も少なく気候温和な地域の建設地において、夏の卓越風を効果的に取り込む開口部や強い日射しを遮る建物形状など、夏季に極力エアコンを使わない暮らしの実現を図った住宅。
- 都市計画区域外の開かれたゆとりのある敷地の中で、建物の高さに配慮し平屋の計画とした。屋根形状は地元の菊間瓦を用いたシンプルな切妻とし、メンテナンスの容易性と耐久性を考慮している。
- 深い軒庇のある住まいは、夏の日射しや雨風から室内環境を守り、軒下空間によって外に開かれた開放的な暮らしを可能とする。こうした住まいづくりを通じて、周辺の豊かな自然や四季の移り変わりを暮らしの楽しみとして取り込み、環境にやさしい暮らしを目指している。
- 地元の大島石を使った石場建てや地域産材を用いた伝統工法による木組み土壁の家とすることで、地場産業の活性化に貢献するとともに、多くの若手職人の技術育成の機会としている。
- 建築に際しては一般の方々に協力を求め、現代版『結い』による助け合いを試みる取り組みを行った。これにより、次なる後継者の種まき、ものづくりの経験を通して先人が残してきた知恵や技術、自然や環境を学ぶ機会となることを目指した。



切妻の大きな屋根と深い軒下空間が特徴的な外観





周辺の豊かな自然と共存できる縁側と庭



高い天井と大きな窓のある開放的なダイニング・リビング

■地域の気候風土への適応・環境負荷低減対策

凡例：気候風土への適応 

環境負荷低減対策 

□深い軒庇

北面に軒の出1,210mm、南面に軒の出2,140mmの深い軒庇を設けている。



深い軒庇

□多層構成の建具

居間の掃き出し窓を内障子、木製ガラス戸、施錠可能な網戸の多層構成の建具としている。



多層構成の建具

□土塗壁

竹小舞下地の厚さ75～83mmの土塗壁としている。



土塗壁

□複数の窓の位置による通風への配慮

小屋裏収納・ロフトの高窓による高低差を利用し通風に配慮している。
引戸形式の室内建具、ロフト部の無双室内通気用窓による室内の通気措置を図っている。



複数の窓の位置による通風への配慮

□開放的な床下（石場建て）

通風による建物の長寿命化が期待できる開放的な床下工法としている。



開放的な床下（石場建て）

□敷地等建物周囲の環境配慮

地表面を覆う植栽計画とし照り返し防止を図っている。



建物周囲の環境配慮

□地域産の材料の使用

地域産材として四国産の構造材、菊間瓦、大島石、土佐和紙等を使用している。



地域産の材料の使用

□薪ストーブ

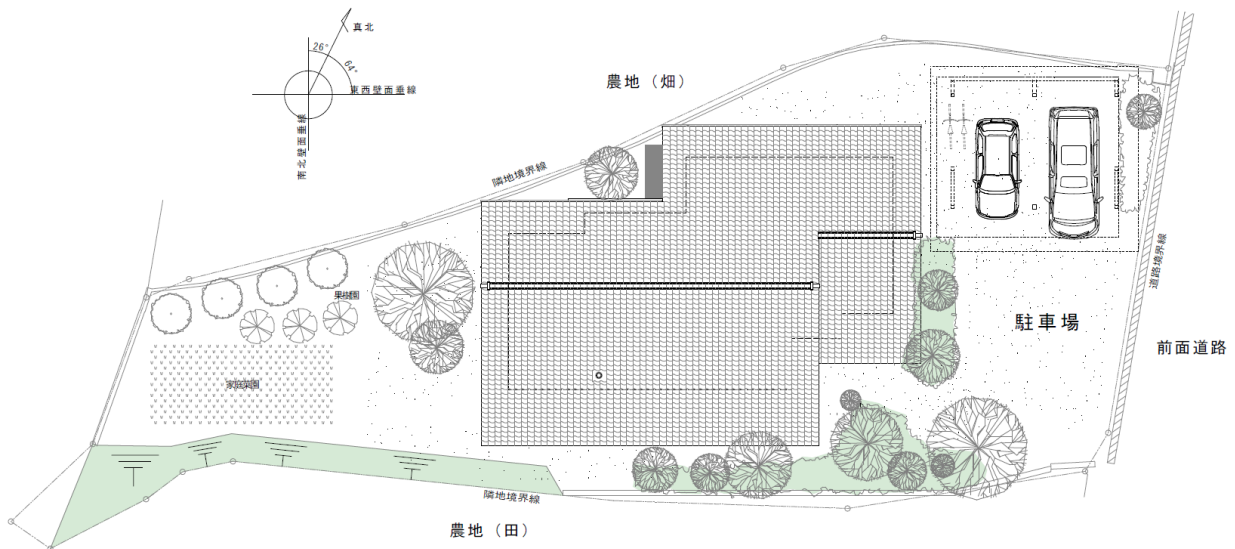
ダイニングに薪ストーブを設置している。



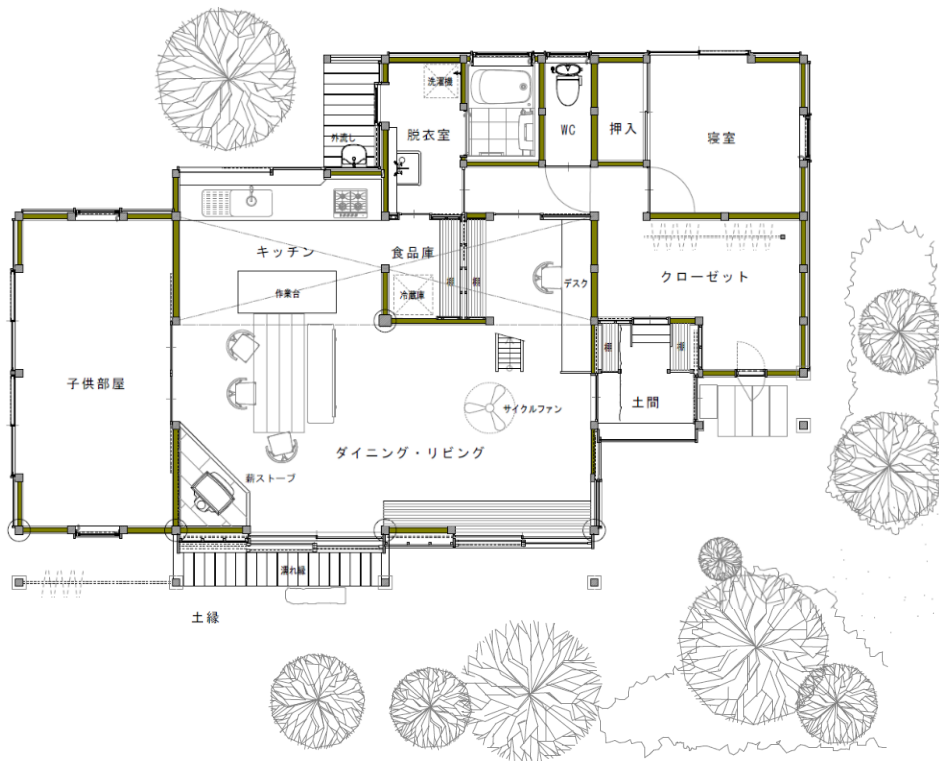
薪ストーブ

■エネルギー性能（採択時）

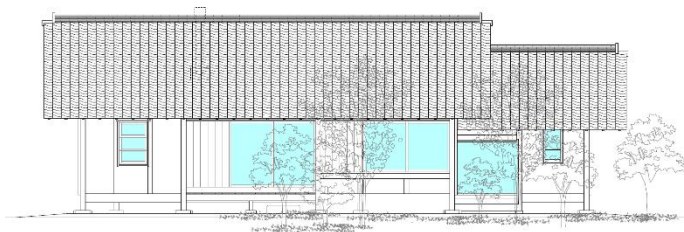
項目	基準値	設計値
評価方法	Webプログラム 気候風土適応住宅版による評価	
地域区分	6地域（愛媛県今治市）	
外皮平均熱貫流率（ U_A 値）	0.87 以下	1.74 W/($m^2 \cdot K$)
一次エネルギー消費量	132.4 以下	128.4 GJ/(戸・年)
一次エネルギー消費性能（BEI）	1.0 以下	0.97



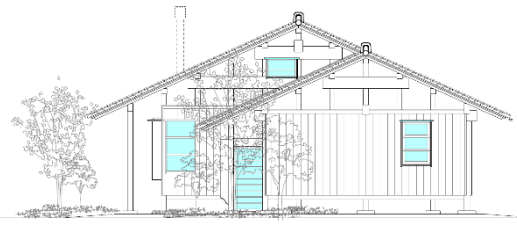
配置図



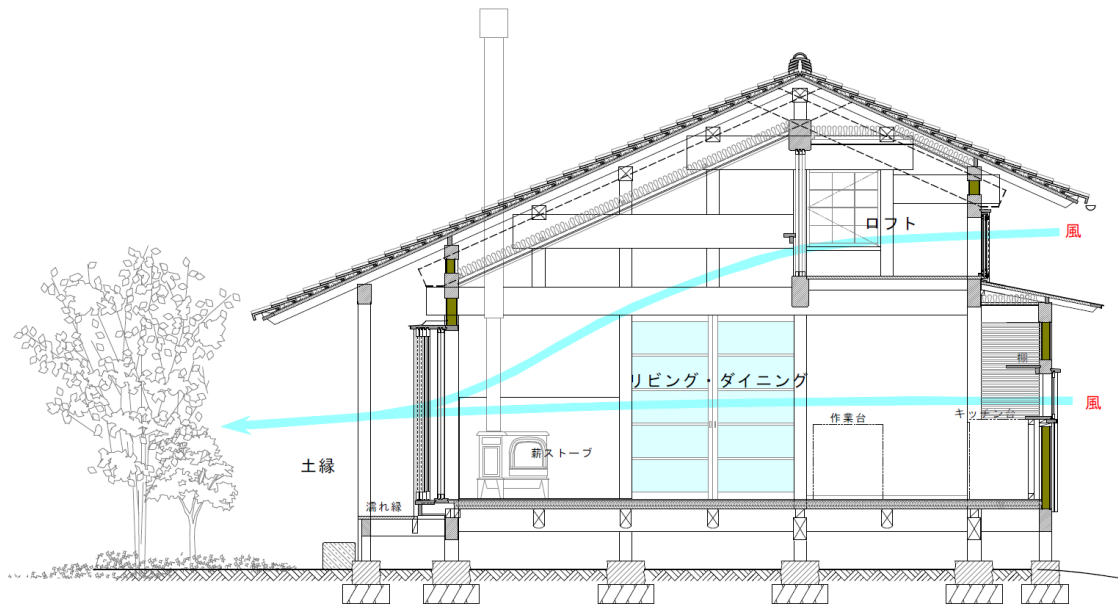
平面図



南側立面図



東側立面図



矩計図

■お施主様の声

気候風土に適した伝統的な家を希望し、伝統の中にも現代的なデザインを取り入れ、暮らしを重視した住まいづくりをしている野の草設計室さんに依頼しました。

土壁や板張りの床、無垢材は美しさとともに心地よさも感じています。高い天井は開放感があり、現しになっている柱や梁の継手仕口は伝統的な技術が受け継がれ、活かされていることを感じます。

伝統的な家づくりに関わって以来、食や住まい、環境を大事にするようになり、各々ばらばらだった点が線につながっていくように価値観が変わり、物事の本質を見ようとする力がつきました。

家庭菜園での野菜作りによる自給的な生活を目指しながら、太陽の光や熱、風をうまく利用した自然と対話する生活を楽しまたいと考えています。

■設計者の声

環境に優しく、自然に寄り添う暮らしのイメージを中心に住まいを検討しました。

季節ごとに変化する庭は、心豊かな暮らしに欠かせないものであると考え、室内から庭とのつながりを感じられるように設計段階から計画しました。

伝統的な技術を残しながら美しく飽きのこない現代的なデザインを取り入れるとともに、夏季の屋根からの輻射熱対策に配慮しました。

入居時には、使われている素材に応じたお手入れなどの維持管理、暑さ寒さに対する上手な暮らし方の工夫などをお伝えしています。

今回の家づくりを通して、暮らし方や生き方に関するお施主様の意識が、より自然とともにありたいという方向に向かって変化していくことを実感しました。